

立沢里山

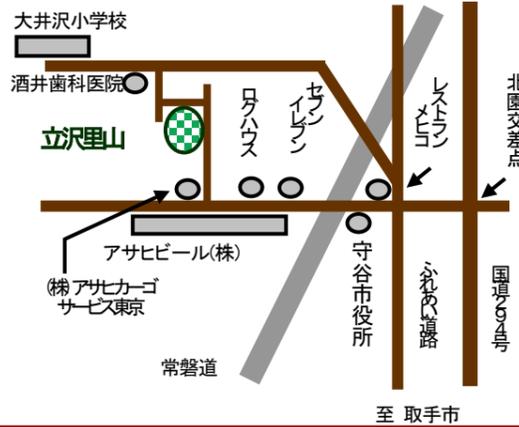
平成25年8月17日 里山新聞 第29号



発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
 問い合わせ先：事務担当
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 351）
 立沢里山ホームページ
<http://www.geocities.jp/tatuzawasatoyama/>

ボランティア募集
 あなたも一緒に楽しみましょう！

【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします

denen21@hb.tpl.jp

清野



～目次～

- 1 木道の大改修
- 2 アサヒビール環境基金贈呈
- 3 田んぼの学校で田植え
- 4 里山ネットワークが「守谷さとやまマップ」発刊
- 5 守谷市民大学の「里山コース」開講
- 6 田んぼの草取り作業、田んぼの状況
- 7 茨城新聞で「守谷の里山」を特集

1 木道の大改修

池の木道橋は昨年5月に改築しましたが、前後の木道は老朽化により相変わらず次々と崩壊し危険な状態となっています。川向うの土手道は割り切って木道を廃止してプラスチックパネルとすることにしても、手前の木道は里山の入り口・顔として印象を決める景観でもあるので木道としての整備が求められます。

今回、改築方法を見直し、耐用年数の長い重量材を活用することにしました。4月14日(日)竹炭窯出しの後に木道材料を現地搬入しました。10センチ角に4メートルの柵材がちょうどジョイフル本田で大量入荷し安くなっていたことから、小川横断部までの数量を計算して調達しました。

ただ、材料が重量級になり一人では作業できない状態なので、4月27日(土)田んぼの準備作業の日に皆の協力で改築作業を行いました。

とりあえず、木道橋の手前、2スパン8メートル区間を改築、今回は杭を使わず横丸太に据え置く方式としてみました。手間と時間不足でいっきに完成できず、5月5日まで連休の間に順次クギ打ちと塗装仕上げを行いました。これが大変なことになり、灼熱の日差しで板材は反り返り、子供が泥だらけにするので、塗装作業の前に急遽モップを持ってきて洗いなおすという二重手間になりました。それでも何とか田植えには間に合わせました。部材の太さ厚さも大きくして、いくらでもある竹酢液に浸して防腐防虫処理を行い、さらに塗装までしたので耐用年数はかなり長くなったと思います。

田植え後の草取りの合間、7月27日(土)にも、改築作業を行い木道橋の先の8メートルを追加施工しました。今度は前回の反省を踏まえて日が暮れはしましたが、ほぼ一気に完成させました。道路から見える範囲の改築は完了し、かなり安全性とイメージは改善したと思います。



木道改築作業

2 アサヒビール環境基金贈呈

4月16日(火) 昨年に引き続きアサヒビールの環境基金を受けることになりました。

里山の会から会長他4名が贈呈式に出席し、工場長から目録を受け取りました。

ちょうど、木道の改築作業を本格化したこともあり、材料費として活用したいと思います。

工場内も視察しましたが、あちこち整理されホタルピオトープはなくなっていました。



アサヒビール



3 田んぼの学校で田植え

今年も恒例の田植えの時期となりました。小学校と相談して5月14日(火)としました。

当日は今年最高の暑さとなりました。今年は父兄の参観も多く、また大井沢小学校の児童数が増えて全体では250名くらいとなり、一段と賑やかになりました。

暑さで心配しましたが、むしろ田んぼの中のほうが涼しく、大勢で歓声をあげながら皆元気に田植えを行いました。田んぼによってかなり出来栄も作業時間にも差がありますが、11時には無事完了

しました。今後の成長が楽しみです。

田植えが終わってから皆順番で上総堀の井戸水で手足を洗いました。ところが、この水が冷たくて気持ちいいと、子供達には手足洗いより興味があるようで、水槽の中ではしゃぎまわり、なかなか出てきません。今年は上総堀の出番が多そうです。

予想通り、5月末に梅雨入り宣言がされて以降、ほとんど降雨がなく、干ばつ状態でした。7月の草取りまで、何度もポンプを回し、危機的な状況は回避され、上総堀が大活躍となりました。

近くの湧水も水量が減ってきて、今年は例年になく、かなり深刻な状況と感じました。



4 里山ネットワークが「守谷さとやまマップ」発刊

3年前に守谷里山ネットワークが、市民協働事業として「知るを楽しむ守谷里山」と題して、ワークショップ、セミナー開催や里山マップの作成等を提案しました。

昨年9月アワーズ守谷で開催した「守谷里山企画展」により、ワークショップ方式で「守谷の自然を描いてみよう」と子供たちと市内里山の生き物などのイラストを描き、守谷市の大きな地図に貼りつけました。今回は、そのイラストを活用しながら、市内里山を紹介する「守谷さとやまマップ」の作成作業に取り組み、4月によろやく完成しました。

市内6か所の里山をイラスト等で紹介し、「立沢里山」も冒頭に入っています。年間行事を里山暦として、四季の花暦、里山を楽しむ注意事項なども記載し、散策のガイドブックとして役立ちます。また、開発前の地形図を色分けして背景図として活用しており、現在里山として緑が残された経緯も理解出来ます。

守谷市の広報誌で紹介された直後から問い合わせが殺到し、またたく間に在庫がなくなってしまい、急いで追加印刷をしました。

関係する里山団体に配布したほか、市役所や市民活動支援センターを始め、市内の公民館、図書館などにも置いてあり、一般市民にも幅広く活用されることを期待しています。

守谷市のホームページでも閲覧することができます。



5 守谷市民大学の「里山コース」が開講

市民協働事業として「里山セミナー」の開催が企画提案されていましたが、本年度から守谷市民大学に専門コースとして守谷の「自然と環境」通称里山コースが開設することになりました。

このコースの最大の特徴は、一般的な生涯学習ではなく、市内の市民活動を担うリーダー育成を目的としていることです。そのため、里山コースとしては、外部の専門家に頼らず、市内で里山活動を行ってきた市民自らが講師を務め、受講生も共同研究しながら、内容の充実と蓄積を図っていくこととしました。

全体の運営は守谷里山ネットワークが担うことになりましたが、「立沢里山の会」は講師陣でも主力メンバーとして活躍しています。

6月1日(土)開講式、6月15日(土)に「リ」と第1講座が行われました。

6月30日にはホテルの現地フィールド研修として徒歩で立沢へ来ました。今後は自然観察会や稲作体験などの現地フィールドとして立沢里山に参加させてもらうこととなります。

市民活動支援センターから歩いて行ける位置関係にもあり、「立沢里山の会」の全面的な協力をお願いします。



6 田んぼの草取り、田んぼの状況

6月22日(土)の定例作業で、田んぼの草刈り、草抜きを行いました。さわやかな梅雨の晴れ間で、小学校から生徒、先生達も大勢参加してくれました。

草取り作業は人数が多いこともあり、一時間くらいで終了し、里山の会からアイスを提供しました。だんだんと日差しが強くなってきたところでもあり好評でした。

途中、大きな亀を発見し、子供達は大はしゃぎです。また、小さな子供もいたので、池からメダカ、ゲンゴロウなどをすくってきてケースに入れ



て自然観察をしました。

天気もよかったので、草取りの後、里山の会は池のヘドロの浚渫作業を行いました。胴長を着ても泥だらけの重労働でしたが、かなり水質改善が期待できると思います。

今年はかなり早い状態、小川の水はほとんどなくなり、上総掘りの井戸水を頻繁に入れないと、田んぼが干上がり、田面に亀裂が沢山入るような状況です。

例年井戸水を使ってもしばらくすると湧水が復活していましたが、今年はなかなか水位が戻りません。湧水の量もかなり減少してきたような気がします。

ただ、立沢里山の田んぼは独自に上総掘りの水源もっているの、湿地の環境としては保持されていることから、このような気象条件下では湿地の生態系を守る側面でも貴重な役割を果たしているともいえます。

といいながら、昨年まで元気に花をつけていた「古代ハス」が今年あまり生長せず、花実も少ないようです。歴史的な熱波のせいで、本当に暑い夏となり人間だけではありません。メダカやカエルも大変かもしれませんね。



7 茨城新聞で守谷の里山の特集号

茨城新聞の社会貢献事業の一環として、県内で活躍する団体や取り組みを、新聞の一面を全面無料で提供する企画があり、市民活動支援センターを経由して相談がありました。

里山のあるニュータウンとして幅広く情報発信する良い機会と考え取り組むことにしました。

4月23日(火)の茨城新聞社との最初の打ち合わせで全体の編集方針を決め、その後数度の打ち合わせで構想原案を作成、6月7日(金)に新聞社と第二回目の打ち合わせを行い、執筆分担をしました

執筆字数も膨大、写真なども必要で、当初はどうなることかと心配しましたが、またたく間に原稿が出来上がり、6月中旬にはほぼ主要作業が完了しました。短期間でしたが、多彩な人材と各里山の会での活動の蓄積と整理ができていた結果だと思えます。なかなか素晴らしい特集となり、8月28日(水)の発刊が楽しみです。各団体への配布や市民大学での活用も考えています。

